

「電気自動車初体験 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この4回シリーズは、まるで日産の宣伝のようになってしまったが、自分で購入もしてないのに、自慢したくなるような車なのだ。

一番の「自慢」は、その加速性能と登坂性能だろう。それは「うわさ」には聞いていたが、実際に試乗してみて驚愕したと言ってよい。今乗っているガソリン軽自動車は、お世辞にも加速性能や登坂性能が良いとは言えない。しかしこの「サクラ」はスタートから時速40km 付近に達する、低速時の加速が驚くほどすばらしい。排気量の大きい高級車の加速に近い感覚だった。中速域の加速も良く、とにかく軽特有の加速のストレスを全く感じなかった。高速道路の走行を試せなかったのが残念だが、恐らく「スイスイ」走って、高級車の走りを凌駕するにちがいない。

試しに小石川の急坂の途中で停車・発進を試させてもらったのだが、坂の途中で停車すると、そのままロックされて後退はせず、発進するとグンと加速した。



車内設備も進化している。室内灯の近くには「SOS」というボタンがある。何か不測の事態が発生して、110番通報も困難な状況になった時に、このボタンを押すと、スマホと連動して自動的に通報、車両の位置も伝えてくれるらしい。実際に使う場面には出くわしたくないが、中高年ドライバーには安心な機能である。グローブボックスの右下には、USB 充電ポートが2口ついている。充電だけではなく、メディアを挿せば、

ステレオで音楽も聴けるようだ。



車両の周囲には、障害物を感知するセンサーもついている。低速で障害物に接近すると、警告してくれるための装備だ。



荷物スペースも有効に使えるように工夫されている。片手で後部座席を前にスライドでき、定員4人乗車のまま、これだけの荷物スペースを確保できる。

車両の見学・試乗を終えて、基本的にこれは「買い」と確信した。しかし、店の方の話だと、発売前にすでに1万台以上の申し込みがあり、今購入申し込みをしても、納車は今年の11月あたりになるそうだ。